

おわりに―^{かいご}介護を受ける人の文化背景を知ること、そして^{かいご}介護するみなさん自身の文化背景を知ること

ここまで読んでみて、日本の文化や慣習について考えるきっかけはつかめたでしょうか。おそらくこれまでの日本での生活で、すでに経験したことも多いかと思います。またそのような経験の中で、さまざまな^{なや}悩みを感じたこともあるのではないのでしょうか。

ここまで記した内容は、あくまでも考えるきっかけとして記したもので、みなさんはこれからこの^{こうもく}項目以上の経験をすることでしょう。そのとき、異文化として経験しながら失敗しても落ち込まない感覚を大事にしてください。そして異文化に接することは、自分の育った文化を理解し深める第一歩だと捉えてください。

例えば、^{かいご}介護を受ける方の世代観でこのテキストでは戦前に育った方、戦後に育った方の価値観についてふれました。同じ^{こうれいしゃ}高齢者でもひとくくりにはできない背景は、育ってきたその人のこれまでの歴史と大きく関わってきます。このような^{こうれいしゃ}高齢者の世代観も、みなさんの国の歴史と関連させて今一度みなさんなりに考えてほしいのです。

ただし、ひとつお願いがあります。みなさんは「私の国では〇〇である」と、すべて国でひとつの文化を^く括することで終わらないでほしいのです。例えば「中国では〇〇である」といっても、住んでいた地域や経験した歴史によって価値観は^{ちが}違いますね。ぜひみなさんの育った国や文化を多角的に考察するようにしてほしいのです。それが「多様な日本人観」の理解につながると思うのです。

そしてみなさんが関わる^{かいご}介護を利用する方はほとんどが^{こうれいしゃ}高齢者であり、みなさんとは違う文化的背景で生きてきた方です。いろいろな方がいらっしゃいますが、時には年上から年下に対して、そして外国人に対して、丁寧な^{ていねい}受け答えをしない方に出会うかもしれません。そのとき、みなさんは不快に思うかもしれませんが、みなさんの育った文化に^{ほこ}誇りを持って、この仕事に取り組んでほしいと思います。みなさんにはたとえ相手より年が下でも、ひとつ上の人間であってほしいと願っています。

そのためには、今みなさんがいる日本のあらゆる文化や慣習に興味を持ち、自身の文化と比較しながら、みなさんの育った文化について、^{かいご}介護を受ける方に話せるようになるとういよいな、と思っています。

多様な日本の文化や慣習をどのように見るか。そしてみなさんの育ってきた文化や慣習を今一度深く考えられるか。みなさんはそのことを意識しながら、^{かいご}介護の現場での学びと経験を積んでいかれることを願っています。